

一般廃棄物処理基本計画案パブリックコメント・回答

No.	受付	市区分	該当箇所	意見内容(一部修正あり)	回答
	2025/1/16	蕨市	第3章 第4節 4. 行政の役割 (2) 生ごみ・食品ロスの資源化検討 (P.124) 第3章 第4節 4. 行政の役割 (2) 生ごみ・食品ロスの資源化検討 (P.124) 第3章 第4節 4. 行政の役割 (2) 生ごみ・食品ロスの資源化検討 (P.124) 第2章 第3節 2. 資源化計画 (5) 生ごみ・食品ロスの資源化検討 (P.96)	<p>コンポストに対しての購入補助制度が戸田市だけのようですが、ぜひ蕨市でも補助制度を作成してほしいです。</p> <p>我が家はバック型のベランダコンポストで生ゴミを堆肥化していますが、基材を定期的に購入しているためそれに対する補助があれば非常にありがたいですし、よりコンポストの普及につながると考えます。</p> <p>ごみの減量化と資源化の推進について、コンポストで堆肥化した生ゴミを回収する、という仕組みがあれば可燃ゴミの水分量が減るため、焼却に必要な燃料を減らすことができ、CO2削減につながるのではないかと思います。</p> <p>生ごみの資源化については、海外では義務化が進んでいると聞いています。例えば韓国の生ゴミリサイクル率は98%、アメリカもニューヨークやサンフランシスコで生ごみ回収が進んでいる、フランスでも生ごみ堆肥化が義務化されている中で、日本は非常に遅れをとっていると感じています。</p> <p>私がベランダコンポストを通して資源循環を学ぶ中で、生ゴミを堆肥化することで「半径2km圏内での栄養循環」ができるのを知りました。生ゴミからできた堆肥を2km以内の畑で利用することで、街の中で栄養循環ができる、という考え方です。</p> <p>堆肥化した生ゴミは、現在のリサイクルフラワーセンターでの受け入れだけでなく、例えばコミュニティガーデンのような誰でも参加できる形の畑があれば、常に堆肥受け入れができ、幅広い世代の市民が集まれるような賑わいの場ができると思いますしその畑でできた野菜はまさに循環した栄養が詰まつたものが収穫できます。</p> <p>文字通り「半径2km」に収まるコンパクトシティで、この栄養循環ができる仕組みづくりができれば、日本国内でもまだ数少ない、栄養循環を実証する取り組みとなるのではないでしょうか。</p>	<p>生ごみ処理機購入補助金制度は、以前、蕨市においても実施しておりましたが、申請数の減少に伴い廃止し、現在は、生ごみの堆肥化と花苗の交換事業を通じて、取組を進めています。いただいたご意見は今後の取組を検討する上での参考にさせていただきます。</p> <p>家庭でコンポストにより堆肥化した生ごみは、市では回収しておりませんが、専用生ごみバケツで堆肥化されリサイクルフラワーセンターに持ち込まれた生ごみを、花苗の生産に使用しています。</p> <p>また、生ごみの堆肥化や水切りの促進などにより、水分量の多い生ごみや食品ロスの減量化と資源化を通じて、温室効果ガスの排出削減に取り組んでまいります。</p> <p>生ごみの資源化については、コンポスト容器による生ごみ堆肥化の促進や、先行事例の調査研究、事業系可燃ごみに含まれる厨芥類の資源化促進などにより資源化の取組を進めてまいります。</p> <p>いただいたご意見は今後の取組を検討する上での参考にさせていただきます。</p>

一般廃棄物処理基本計画案パブリックコメント・回答

No.	受付	市区分	該当箇所	意見内容(一部修正あり)	回答
2 2025/1/17	蕨市	第3章 第4節 2. 事業者の役割 (2) 食品廃棄物の発生抑制 (P.122)	給食時間が短いという話を在学中の親子から聞きます。食べることよりも時間が重視されていることで食事の楽しさを奪われ、食べたかった料理も残さざるを得ないとのことです。ゴミも減るし給食時間の確保をお願いします。	給食に関するご意見は、教育部局に情報共有を図ってまいります。	
			「てまえどり」の案内が店舗で流れているところがありますが、それだけでも「そうだ!」と気づき手前から買うようにしています。世の中の意識を変えるためにも当たり前の風潮になるようにメディアや店舗、広報などでも積極的に発信していくといいかと思います。エコバックみたいに時間はかかるてもいつかは。	手軽に実施できる食品ロスの削減方法の一つである「てまえどり」の普及啓発のため、市民に対して3キリ運動の啓発を行います。また事業者に対しては、「てまえどり」の取組が活性化するよう、啓発してまいります。 周知啓発の具体的な方策については、ホームページへの掲載のほか、さらに有効と考えられる方法について検討してまいります。	
		第3章 第4節 2. 事業者の役割 (5) 社内活動 (P.122) 第3章 第4節 4. 行政の役割 (1) 生ごみ・食品ロスの発生抑制 (P.124)	フードドライブは、子ども食堂やフードパントリー団体にとっても、とても助かります。ただその団体が直接フードドライブ活動することは余力がなく、フードドライブ活動を出来る企業などとの連携があるとベストです。行政はその橋渡し役に重要なところだと思うのでそれぞれの役割での連携を望みます。 フードドライブの受付場所が、市民が行きやすい拠点に市内複数個所にあると、誰でも気軽に寄付しやすいと思います。コンビニや郵便局や銀行、公民館など。そういうところの中にも実際にフードドライブを始めているところもあるので、蕨市との連携があることでもっと進むのではないかと思います。	事業者におけるフードドライブ活動や、フードバンクとの連携を推進するために、フードドライブやフードバンク、子ども食堂、フードパントリーなどの各種活動に対して支援を行ってまいります。また、これらの活動について市民や事業者に対して情報提供を行うことで、連携を促進してまいります。	
			コンポスト容器や生ごみみたい肥化について、何年も前に広報などで見たことがあったのですが、すっかり忘れていました。素晴らしい取り組みだと思うので、蕨市では生ごみみたい肥化は当たり前!みたいになるといいですね。リサイクルフローセンターまで行けない人も出来るような方法を講座や学校で。	市民における食品廃棄物の資源化を促進するため、コンポスト容器などによる生ごみ堆肥化の促進やリサイクルフローセンターの活用推進を進めるとともに、環境教育プログラムの充実などの取組を通して、食品廃棄物の資源化方法の普及啓発を進めてまいります。	
第2章 第3節 6. その他の施策 (1) 環境教育、情報提供の充実					